

第3回菊川市総合計画審議会（令和6年7月4日開催）での主なご指摘事項について

No.	主なご指摘事項	対応方針等
1	<将来像案について>「菊川市が目指すべきまちのイメージ」における『本市を取り巻く社会状況』の説明について、「コロナ禍により大きく変化した社会経済の実態」の部分は「コロナ禍」ではなく、「世界情勢」といった世界的な変化として捉えるべき。 「人口減少などの人口課題」が繰り返しの様な感じするのと、「コロナ禍により変化した」というより、どちらかという昨今の世界規模の紛争とかで大きく社会経済、エネルギー、物価高は関わっている、そういったことをしっかり書かれたほうがいい。	「コロナ禍」に限定せず、「世界情勢」という言葉に修正するなど、社会状況を再整理し、文言を修正します。
2	<将来像案について>「菊川市が目指すべきまちのイメージ」における『本市を取り巻く社会状況』の説明について、「コロナ禍により」というのは特定しすぎているし、コロナ禍も変わってきているので、あまりコロナというよりも、さまざまな世界情勢や、ITとか、幅広い要素があるため、「大きく変化した」というより、「変化する」、現在進行形とすることも含めて見直していただきたい。	「大きく変化する社会経済」に修正します。
3	<将来像案について>「菊川市が目指すべきまちのイメージ」の説明文では、『誰もの夢が叶い』としているが、将来像案では『誰もが夢叶う』としている。『の』と『が』のどちらが正しいか。	『が』が正しいため、『誰もが夢叶う』で統一するよう修正します。
4	<将来像案について>将来像「誰もが夢叶う 幸せ創生都市 “菊川”」の『菊川』の部分について、「菊川市」とし、小笠地域への配慮も必要ではないか。 県外の人たちから見ると、菊川が町なのか市なのかわからないかなと思った。最後に「菊川市」と入れてもいいのかなというのは思った。	他の審議会委員からの意見や合併時から変わらず菊川市全体が一体となったまちづくりを進めてきたことを踏まえ、「菊川」のままとし、改めて「菊川」「小笠」と明記しないこととします。 『菊川』の表現については、「菊川市」とした場合、『幸せ創生都市』の「都市」と「市」が同列の意味合いとなるため、「菊川」のままとする。外からの視点については、計画の周知の中で、「静岡県菊川市」であることを明記していきます。
5	<基本構成体系案について>魅力として意見の一番多い「みどり」のところを採用しないで、意見の少なかったところを「高めます」に変わったところが思い切った取り組みだが、菊川はお茶であるとか、みどりの自然豊かというのが、本当に大きな魅力であって、そこに触れないというのは大きな判断。人によっては、菊川のよさはそういう田舎みたいなのところと思っている。 菊川の魅力というのは「みどり」というところが一番大きい。菊川の魅力が一言で詰まっている「みどり」という言葉はぜひぜひ入れていただきたい。	「将来像」の説明文の中で、『みどり』の言葉が使って、菊川市の魅力を表現していきます。
6	<魅力を高める基本目標について>魅力目標5の「躍動」が、「躍進」となっている部分がある。どちらが正しいか。	正しくは「躍動」のため、修正します。
7	<魅力を高める基本目標について>魅力目標3の「幸福」の訳が「Happiness」となっているが、「Well-Being」というのは一時的な「Happiness」ではなくて、心身ともに健康である状態とか、社会的にも満たされている状態ということの意味すると聞いたことがある。「Happiness」とは違った概念だと聞いたことがあるので、今回の魅力目標で言うと、健康とか福祉とか、どちらかというウェルビーイング要素が強いかなと思う。魅力目標の「幸福」に継続的な、心身ともに健康であること、社会的に満たされていることという意味が含まれているといいと感じた。	「Happiness」は健康や福祉、医療などの分野ごとの幸せとし、「Well-being」は身体的・精神的・社会的にも良好な状態、持続的に良好であるといったより広い範囲の幸せと整理しています。「Well-being」は「Happiness」も含め、各魅力目標を包含する一段上の概念で、将来像案で使っている幸せを表現する言葉とし、魅力目標3は現案どおり「Happiness」と表現することとします。